

# 令和6年度 訪問介護事業所あいの会事業計画

## 1. 職員体制(2023.5.20時点)

・サービス提供責任者	3名	(梅田・浅井・山本)
・訪問介護員	3名	(吉本・大橋・山田理)
	計	6名

## 2. 事業計画概要

2023年度は事業所単体では975,476円の黒字収支とする事が出来た  
2022年度が138,732円の赤字、2021年度が1,310,220円の赤字だった事に鑑みるに、歩幅は小さいが着実に前進して来ていると言える

まず初めに、日々、懸命に努力して下さっている職員一人一人に対して、謹んで最大限の敬意の念を表したいと思う

その上で、あいの会全体としての赤字解消に向け、引き続きのご協力をお願いしたいと思う

既存の戦力で効率よく売上げを上げ、利益を追求していく為に、今年度は昨年度にも増して、従来の方法や慣習にとられる事の無い柔軟な発想で、現在の組織や個々の業務内容を、再度各論で見直し「質は落とさず、いかに省力化や効率化出来るか、ひいてはそれをどう売上や利益確保に繋げていくか」という事を常に念頭に置きながら以下に述べる取り組みを通じ、更に追及して取り組んでいく

### ◎効率化・省力化・経費削減

現状、日中はサ責含め職員全員が現場に出ている状況であり、今年度もその状況は変わらないもしくは、更に厳しくなると予想される

その為、なかなか時間が取れず、昨年度目標としていた以下の項目について、その大半が手つかずで終わってしまった

具体的には、

- ・提供票の内容の見直し、簡略化
- ・利用者別グループLINEへのケアマネジャー等の他事業所の方の参加  
ひいては、要介護分の毎月の報告書の廃止
- ・アセスメントシートの内容の見直し、簡略化、作成までの流れの見直し
- ・訪問介護計画書の見直し、簡略化 等が挙げられるが、限られた時間内での書類作成や、関係事業所への報告、連絡等に要する時間をいかに捻出し、省力化につなげていけるかを常に念頭に置きつつ今年度は必ず達成できる様に取り組んでいく

### ◎個々の資質・事業所全体の資質の向上

公の研修数の減少に鑑みZOOMやYouTube等を活用した自主研修を含め、自分が苦手だと思ふ分野の外部研修に積極的に参加して見分を広め、技術や知識の向上を図ると共に、各種SNS等を活用し内部研修を充実させ個々の資質の向上、ひいては事業所全体のレベルの向上を目指していく同時に「世間一般通念上当然とされている必要最低限のビジネスマナー」の理解や習得を行い、プロとしての意識の向上も目指していく

## ◎情報共有・連携の強化・ICTの活用・ペーパーレス化の推進

前年度目標としていた「利用者別のグループLINEへのケアマネジャーの参加の他、訪問看護やデイサービス、福祉用具等の関係事業所にも参加してもらい、より新鮮な情報を、スムーズに共有し連携していく仕組み作り」については、一部のケアマネジャーの参加をしてもらうのみに留まり、また、「利用者に係る情報(利用者情報、サービス実績、工程表、計画書、アセスメント等)をデータ化し、各職員のスマホで全ての利用者情報が確認出来る仕組み作り」についても、利用者情報をLINEで共有するに留まっている為、今年度も引き続きこれらが実現できる様に、取り組んでいく  
また、職員全員のLINEやパソコンスキルの上達も併せて取り組んでいく

## ◎適正、厳格な不公平感の無い評価体制の検討・確立

昨年度目標としていた、全職員を対象に行っている自己評価に、「他個評価」加える形で実施する事が出来た  
これにより、職員個々の「見せ方・見られ方」の部分の意識の向上と自己の「強み」「弱み」を真摯に冷静に受け止め、分析する事で、「仕事の質」の向上へ繋げていってもらう効果を期待する  
また、その結果を元に面談を実施して刷り合わせを行い、各自の目標を明確にし、目標達成の評価を厳格に行い、今後の「より不公平感の無い、根拠のある評価体制の構築」を、引き続き目指していく

## ◎職員の負担軽減、働きやすく楽しい職場環境づくり

良い介護を行う為に一番必要な事は、介護の技術や知識ではなく、介護する側のメンタルが安定しており、介護される側が安心出来る介護を提供する事である  
その為には、まず職員自身とその家族が安寧な状態である事が、一番大切な事であり、限られた人員であるからこそ、互いにカバーできる体制を構築していく事が重要となる為、「誰かしか出来ない仕事」を作ってはならない職員自身やそのご家族の事を最優先と考え、いつ誰に何が起こっても気兼ねなく休め、かつ仕事が滞らない様にする為にも、前年度に引き続き全ての業務においてのチェイサー制度を構築していく事を目指していく

仕事を「楽(たの)」しむという事は「楽(らく)」をするという事ではない  
「楽(らく)」の先に「楽(たの)」しきは無  
今の自分の持てる力を全て発揮し、今出来るベストを尽くしたその先にこそ真の「楽しさ」があり、それが分かるのは、その仕事を離れてふとした時に、「しんどかったけど楽しかったな」と、その時初めて分かる事である

少数ではあるが、選りすぐりの精鋭ぞろいの訪問介護事業所である一人一人に掛かる負担は増加しているが、個々の能力の高さをもってすれば超えられない壁は無いはずと信じている  
互いに助けあい、思いあい、本当の意味での「楽しい」職場環境づくりを目指し、今年度も職員一丸となり頑張っていく